

Dream can do, Reality can do.

～思い描くことができれば、それは現実にできる～

神奈川県立市ケ尾高等学校
校長 増淵 広美

現在、日本では、小・中学校、高校、大学をはじめあらゆる学校でキャリア教育が進められています。それぞれの段階や各校の実情、児童・生徒等の実態によりその目標や取り組み方などに違いがあっても、その実践にあたって共通していることは、社会の中で自らの役割を果たしながら自立し、自らの可能性を切り拓き、より豊かな、そして、自分らしい生き方を実現するための力や態度を育むという視点に立って日々の教育活動を展開しているということです。

高校の3年間は、子どもから大人へと成長する過渡期であり、飛躍的に成長する時期でもあります。そして、二つの意味で人生の中でも非常に大切な時期にあたります。

一つは、独立した確固たる自分を模索し始める時期であり、「自分とはどんな人間なのか」「何をやりたいのか」「何をすべきなのか」などと悩み、迷いながらも、徐々に自己を確立していく時期です。二つ目は、自己の個性や能力を活かして将来につながる進路を選択する分岐点であり、その後の人生に大きく関わる時期であるということです。つまり、自己理解を深め、人間としての在り方生き方を理念的に考える一方で、進学や就職など、現実的な進路について具体的な選択や意思決定が求められ、その実現に向けて具体的に取組まなくてはならないということです。しかし、この二つは相反するものではなく、一体としてあることに意味があります。

皆さんは、その3年間をこの市ケ尾高校で過ごします。「自己啓発」「自主・自律」「文武両道」の精神のもと、勉強にも部活動や生徒会活動等にも一所懸命に取り組み、明るく伸びやかで活気あふれる校風は、多面的な成長を促すには非常に恵まれた環境です。是非、学校内外の様々な活動に積極的に取り組み、その体験をとおして多くの仲間や人に出会い、その中でじっくりと自分と向き合い、自分がかげがえのない存在であることに気づき、それを受け止め、自分の才能や無限の可能性に目覚めてほしいと思います。そして、自己を知り、どんな生き方をしていくのか、どのように社会に貢献していくのかというようなことをしっかりと考え、思い描いてほしいと思います。たとえば、大学への進学を考える場合でも、大学で何を学び、将来それをどう生かすのか、大学進学に対する確かな目的意識、「大学の向こうにある社会」や職業、社会への貢献などを見据えてほしいと思います。そして、それが自分を活かすということにもつながります。

“Dream can do, Reality can do.”——これは、『NASAより宇宙に近い町工場』（植松努 著）という本の中で出会った言葉です。その本では、「思い描くことができれば、それは現実にできる。」と訳されていました。アメリカ航空宇宙局（NASA）の出発点であるラングレー研究所の門に刻まれている言葉だそうです。人類は未来を思い描くことで進歩してきましたが、人間は、自分の進むべき道を思い描くことで成長し続けます。

思い描くことができれば、たとえ困難があってもそれを乗り越え、そこに向かって突き進むことができます。将来、市高生の皆さんがそれぞれの立場で社会の中核を担い、よりよい社会、よりよい世界を思い描き、その実現に存分に力を発揮してくれることを心から期待しています。